

小規模事業場における 主体的産業保健活動の普及のための ツールと研修方法の開発

平成23年度福岡・茨城合同研究報告

池田 智子, 織田 進, 小松 満,
中尾 由美, 井上 彰臣, 武澤 千尋, 高嶋 靖子, 田中 郁子,
伊藤 進一, 和田 弘, 倉持 勝男, 大西 慶造, 根来 健造他

研究目的

背景(先行研究より)

小規模事業場は、業種、経営状態、職場風土、従業員構成等の多様性に合わせた支援が必要

⇒有効な方法:事業場の主体的参加による保健活動を専門家が側面から支援する「参加型産業保健活動」

⇒我々の研究:平成20年度からこの参加型産業保健活動を実践し、効果を評価

本年度の研究目的

1. 4年間保健活動を継続できた事業場の活動効果検証
2. 事業場の主体的活動を継続させ、他事業場にも水平展開させる、専門家の技術の解明
3. 専門家のための、「小規模事業場の主体的保健活動推進ツール・マニュアル」の作成

対象事業場(茨城)

事業場	従業員数	業種・主な仕事内容	平成20年度から 本年度にかけて の活動継続状況
IA	38	コンクリート2次製品製造業	① 3年+② 1年
IB	16	製造業、金属製品の製造	① 3年+② 1年
IC	46	厚板板金加工業(土木作業 機械の部品製造)	① 3年+② 1年
IE	35	プラスチック原材料の着色 加工及び コンパウンド製造	① 2年
IF	22	建設機械部品の製作	① 2年
IG	80	自動車部品の製造	① 新規
IH	42	高齢者福祉事業 (養護老人ホーム他高齢者 福祉施設)	① 新規
II	34	医療器械の販売・修理	① 2年+② 2年
IJ	170	制御盤製造業	① 2年+② 2年
IK	27	ソフトウェア開発業	① 1年+② 3年

対象事業場(福岡)

事業場	従業員数	業種・主な仕事内容	平成20年度から本年度にかけての活動継続状況
FA	300	建設業	① 2年
FB	62	介護・福祉業 (通所・入所介護施設)	① 2年
FD	48	介護・福祉業 (療育センター・通所)	① 2年
FG	6	製造業	① 新規

【注1】①専門家の支援あり, ②専門家の支援なし(自立して独自に活動)

【注2】事業場の記号は、平成22年度産業保健研究報告書と同名

方法

1. 支援者(介入者)

福岡:保健師1名

茨城:保健師1名, コーディネーター5名

2. 介入方法: 前年度の評価を基に、事業場の主体的保健活動を継続支援

3. 分析方法:

①活動効果: 自記式質問紙調査の活動前後比較

ストレス源・仕事の資源: 要求度, コントロール, SS, 公正性, 健康無理解度

アウトカム: 抑うつ, WE, SRH, パフォーマンス, 生活習慣

解析: 対応のあるT検定, 周辺等質性検定

②支援技術: 事業場と支援者双方の変化の経過をARにて分析

結果1 各指標の支援前後の変化 ①ストレス源・仕事の資源

	新規事業場(N=95)			継続事業場(N=42)		
	支援前	支援後	P値	支援前	支援後	P値
	平均(SD)	平均(SD)		平均(SD)	平均(SD)	
要求度/コントロール比	1.26 (0.06)	1.25 (0.06)	0.832	1.05 (0.09)	1.15 (0.10)	0.348
仕事の要求度	8.74 (0.21)	8.62 (0.19)	0.541	8.44 (0.33)	8.75 (0.31)	0.348
仕事のコントロール	7.83 (0.26)	7.75 (0.27)	0.748	8.43 (0.41)	8.51 (0.42)	0.811
上司の支援	7.05 (0.24)	6.98 (2.01)	0.777	7.64 (0.40)	7.69 (0.41)	0.895
同僚の支援	8.08 (0.25)	7.98 (0.25)	0.664	8.69 (0.39)	8.78 (0.39)	0.797
手続き的公正	3.22 (0.10)	3.10 (0.88)	0.220	3.49 (0.15)	3.35 (0.14)	0.368
対人的公正	3.19 (0.11)	3.25 (0.10)	0.621	3.38 (0.20)	3.51 (0.17)	0.531
職場の健康理解度	8.18 (0.18)	7.96 (0.18)	0.296	8.58 (0.29)	8.06 (0.28)	0.117

結果2 各指標の支援前後の変化

②仕事関連アウトカム

	新規事業場(N=95)			継続事業場(N=42)		
	支援前	支援後	P値	支援前	支援後	P値
	平均(SD)	平均(SD)		平均(SD)	平均(SD)	
抑うつ度	28.6 (0.89)	28.3 (0.85)	0.731	29.5 (1.36)	29.3 (1.30)	0.924
ワーク・エンゲイジメント	3.24 (0.14)	3.35 (0.15)	0.341	3.66 (0.23)	3.43 (0.23)	0.236
主観的健康感	2.70 (0.06)	2.62 (0.08)	0.345	2.71 (0.10)	2.69 (0.13)	0.884
仕事のパフォーマンス	6.64 (0.18)	6.64 (0.32)	0.973	6.21 (0.29)	5.97 (0.32)	0.422

結果3 各指標の支援前後の変化

③生活習慣

	新規事業場(N=95)			継続事業場(N=42)		
	支援前	支援後	P値	支援前	支援後	P値
	平均(SD)	平均(SD)		平均(SD)	平均(SD)	
睡眠時間 (時間/日)	6.43 (0.12)	6.47 (0.17)	0.768	6.30 (0.19)	5.95 (0.27)	0.122
喫煙本数 (本/日)	4.42 (0.73)	4.42 (0.72)	0.987	4.61 (1.17)	3.94 (1.15)	0.067
運動 (週1以上)			0.359			1.000
はい	22 (23.2)	17 (17.9)		11 (26.2)	10 (23.8)	
いいえ	69 (72.6)	74 (77.9)		31 (73.8)	31 (73.8)	
不明	4 (4.2)	4 (4.2)		0 (0.0)	1 (2.4)	

考察①

継続事業場は新規事業場に比べて

- 仕事のストレス源が低く
- 仕事の資源が高い
- ワークエンゲージメントが高い
- 喫煙本数の減少

→事業場の保健活動を継続的に行っていくことで、ストレス源・仕事の資源の指標を良好な状態に維持するとともに、大幅な悪化を予防できる可能性

考察②

活動支援AR分析より

小規模事業場が初めて産業保健活動に取り組む際の
支援技術は

- 1) 産業保健活動を開始するきっかけをつくる
- 2) 安全衛生体制が構築されるまでのスモールステップを支える

さらに事業場が自立して産業保健活動を継続していく際
には

- 3) 事業場が自発的に活用できるネットワークをつくる
- 4) 継続的に訪問する

活動実施・継続に至らなかった事業場の 原因分析

- 元々面識のない事業場は、高い確率で実施に至っていなかった
- 意思決定責任者の意向が強く影響していた
- 活動中断の主な原因は、活動内容のマンネリ化であった

→対策

- ・日頃からの信頼関係を構築しておくこと
- ・最初の段階から、意思決定と裁量件のある責任者に説明すること
- ・保健活動を組織・業務の中に位置づけること
- ・専門的視点からの助言を、事業場のニーズに合わせてタイムリーに過不足なくすること

本研究の成果物

1. 小規模事業場における参加型産業保健活動の支援方法解説マニュアル
2. 良好事例
3. 活動効果評価FBシステム



開発とWeb上公開

福岡産業保健推進センター ホームページより

いざいき職場のお手伝いをいたします！

小規模事業場における主体的産業保健活動 「KIZUNAカンパニー」の作り方

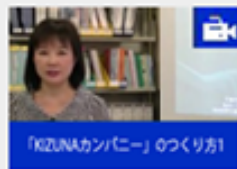
地域産業保健センター、産業保健推進センター等のスタッフによる支援方法
(平成23年度 労働者健康福祉機構 産業保健研究成果より)

■ KIZUNAカンパニーとは 

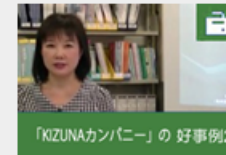
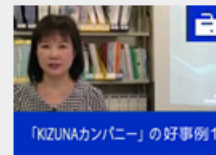
■ 支援目的と方法

小規模事業場における主体的産業保健活動として、「KIZUNA地域産業保健センター、産業保健推進センター等のスタッフ支援の目的や方法のあらましを理解していただくために下記

*** 「KIZUNAカンパニーの作り方」



*** 「KIZUNAカンパニーの好事例」 ***




■ 支援時のツール(ダウンロードしてご利用ください。)



・ツール1 「KIZUNAカンパニーを作ってみませんか？」 

・ツール2 事例集(作成中)



・ツール3 KIZUNAカンパニーの効果がわかるアンケート調査票 

※WEB上からもアンケート調査票に回答できます(作成中)



・ツール4 KIZUNAカンパニーアクションチェックリスト 

謝辞

- 東日本大震災および原発事故により甚大な損害を被られた茨城の協力事業場の皆様には、心よりお見舞申し上げます
- 大震災後の混乱にあっても、本研究へのご協力を賜りました小規模事業場様に、心より敬意を表します
- 多忙の中活動を支援してくださった地域産業保健センターのコーディネーター、保健師その他専門家の皆様に感謝申し上げます
- 貴重な研究機会をくださった茨城・福岡の両産業保健推進センター、労働者健康福祉機構に深謝申し上げます